

- thermogenic origin. *Geochem. Joul.*, 23, 139-142.
- 井波和夫(1981):房総半島における泥岩の物性について. *石技誌*, 45, 149-158.
- 井波和夫(1983):房総半島上総層群泥岩の圧密について. *地調月報*, 34, 207-216.
- Inoue, Yoko(1983): Northwest Pacific foraminifera as paleo-environmental indications. *Sci. Rep. Inst. Geosci. Univ. Tsukuba*, 10, 57-162.
- Ishiwada, Y.(1964): Benthonic Foramonifera of the Pacific coast of Japan refered to biostratigraphy of the Kazusa Group. *Rep. 205, Geol. Surv. of Japan*, 1-45.
- 関東天然瓦斯開発株式会社(1965):茂原ガス田. *石油学会誌*, 8, 540-545.
- 米谷盛壽郎(1983):上総層群(南関東)標準層序表. *石油鉱業便覧*, 石技協会, 707.
- 松本 良(1995):海底メタンハイドレートの資源ポテンシャルに関する検討課題. *石技誌*, 60, 147-156.

- 名取博夫(1996):メタンハイドレート解離相としての水溶性ガス鉱床. 平成8年度石技協会春季講演会要旨集, 94.
- 奥田義久(1993):シャーベット状の天然ガス資源—ガスハイドレート. *Petrotech*, 16, 300-306.
- 高山俊昭・佐藤時幸・亀尾浩司・佐藤登美子(1995):第四系石灰質ナンノ化石層序と鮮新統/更新統境界の年代値. *第四紀研究*, 34, 157-170.
- 田崎善行(1992):茂原ガス田の産出挙動と毛細管圧力の関係について. *石技誌*, 57, 151-156.
- 渡辺真人・壇原 徹(1996):房総半島上総層群のフィッシュン・トラック年代. *地質雑*, 102, 545-556.
- 米谷 宏・粕 武・鈴木尉元・小玉喜三郎(1983):上総・三浦及び保田層群中の有機炭素及びノルマルパラフィンの分布. *地調月報*, 34, 153-174.

NATORI Hiro'o (1997): Mobarate type natural gas deposits seem to be methane hydrate origin.

<受付:1996年12月20日>

ビデオ「天然ガスハイドレート」

21世紀の天然ガス資源として期待されている天然ガスハイドレートのビデオが完成しました。これまでに地質調査所が中心となって行ってきた合成実験、資源量評価、探査手法開発などを中心として、天然ガスハイドレートの分布、構造、基礎物性から探査、掘削、生産に至る広範な内容を分かりやすく解説しています。地質調査所標本館で上映しているほか、基盤技術研究促進センターなどを通して入手できます。

内容は以下の通りです。

1. 天然ガスハイドレートとは何か
 - 1) 天然ガスハイドレート:燃える雪玉の燃焼実験
 - 2) 日本近海の分布
 - 3) 世界の分布
 - 4) メタンハイドレートの構造:分子模型, 生成過程
2. 基礎物性
 - 1) 合成実験:温度圧力条件の検討
 - 2) 生成分解曲線:メタンハイドレートの安定条件
 - 3) 測定装置:ガスクロマトグラフ, ガスクロマトグラフ燃焼質量分析計, ガスクロマトグラフ質量分析計, 核磁気共鳴装置
3. 探査
 - 1) 地震探査の概念:海底下の地質構造の解析
 - 2) 地震探査船上作業:白嶺丸での船上作業
 - 3) 地震探査記録処理
 - 4) BSR(海底疑似反射面):南海トラフの地震探査記録
 - 5) メタンハイドレートの安定領域
 - 6) 天然ガスハイドレート賦存モデル
 - 7) ブレーク海嶺:ODP Leg164航海, ハイドレート回収試料
4. 掘削・生産
 - 1) 掘削法
 - 2) 生産法
 - 3) ロシア・シベリア:メソヤハ油田
 - 4) アラスカ・ノーススロープ:プルドーベイ油田
5. まとめ
 - 1) 日本の探査・開発計画:基礎物理探査, 基礎試験
 - 2) 通産省・石油公団の開発計画・体制:天然ガスハイドレート開発推進体制
 - 3) 世界及び日本の天然ガスハイドレート資源量
 - 4) 今後の展望

(今井 登)